

胃癌の手術療法

胃癌に対する手術療法に関してはすでに標準治療，標準手術という考え方が確立されています。

当科ではこれを患者さんに充分理解していただいた上で，個々の状況—進行程度，全身状態など—に応じた，術式やその後の治療法を御本人と相談の上で選択，施行していきたいと考えています。

特に，早期胃癌については特定の条件を満たすものについては手術療法ではなく内視鏡のみでの治療も可能です。

以下に当科での手術療法の成績を簡単に示します。
さらに細かいデータについては，御質問下さい。

富山市民病院における胃癌の治療成績

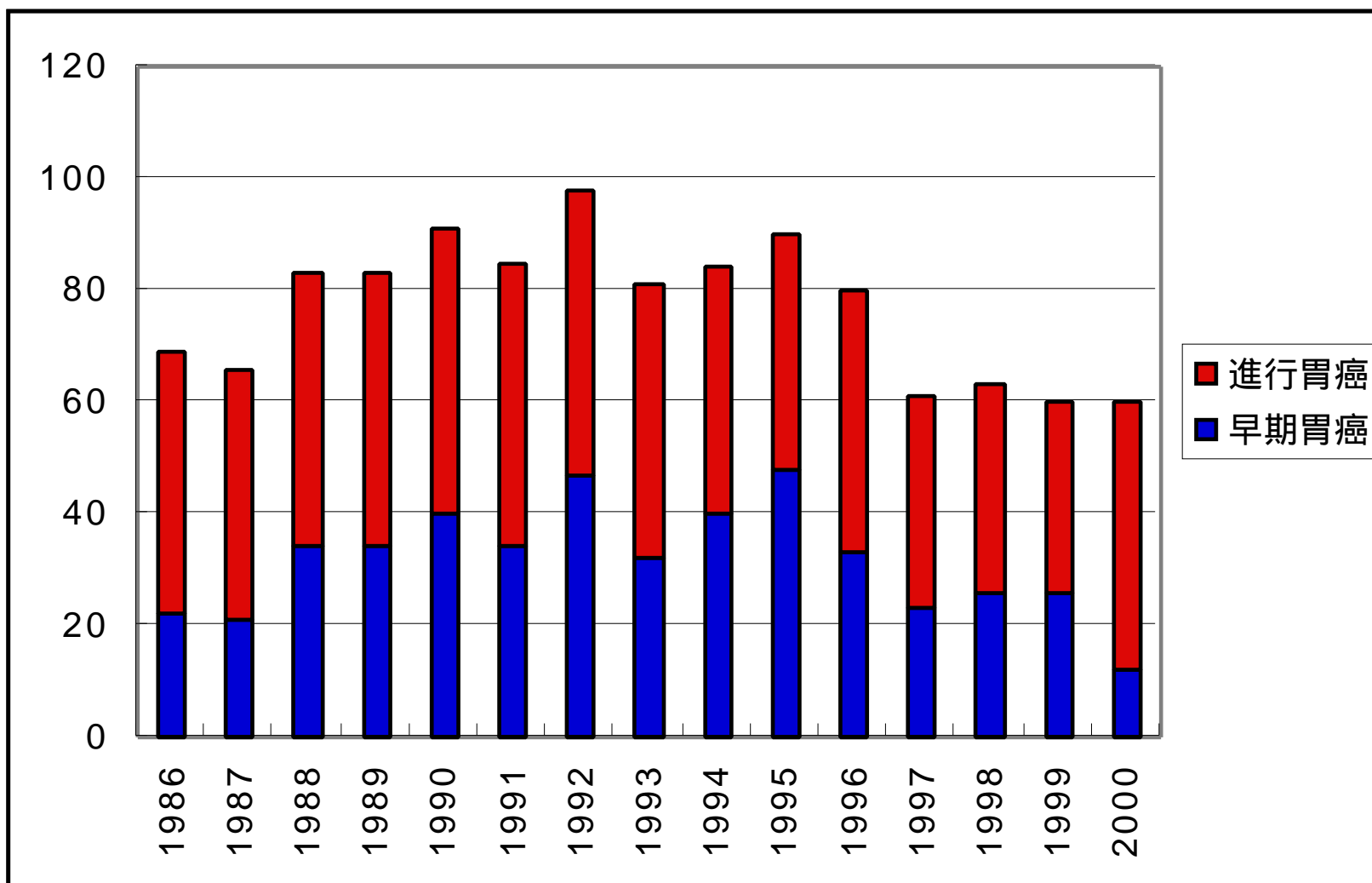
1986年1月1日から2000年12月31日までに
手術を施行した1173例を検討

男：女 = 2.1 : 1

平均年齢 男：63.7才，女：62.6才

多発癌は73例（6.2%）

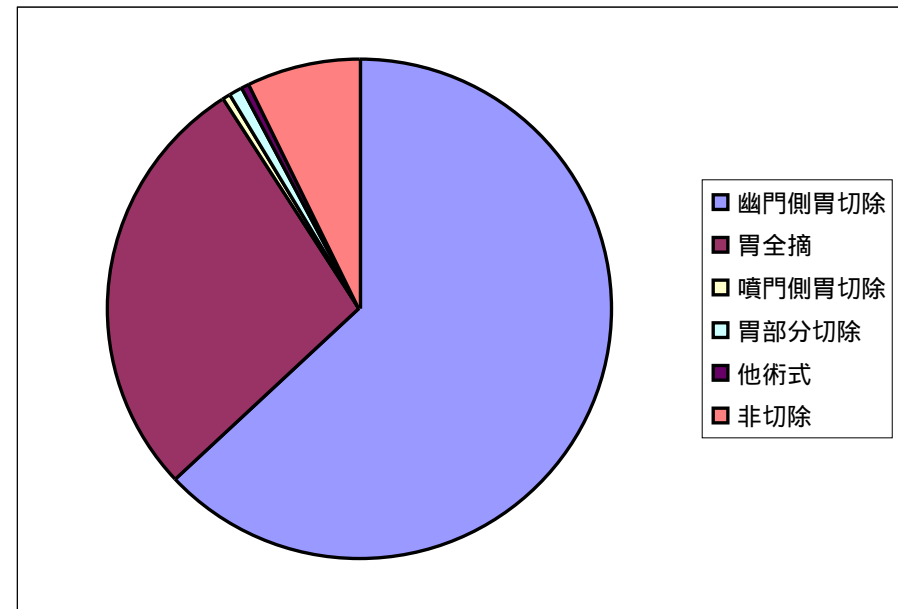
年度別手術数



早期胃癌：40.2%，進行胃癌：59.8%

施行された術式

幽門側胃切除 : 741例
胃全摘 : 325例
噴門側胃切除 : 5例
胃部分切除 : 12例
他術式 : 5例
非切除 : 85例
(7.2%)



切除率 : 92.8%

手術に伴う合併症

		DPG	TG	他
縫合不全	Major: 15 (1.4%)	7	7	1
	Minor: 7 (0.6%)	2	5	
出血	5 (0.4%)			
臍瘻	17 (1.6%)	TG+PS:11 , TG+S:2 , DPG:4		
腸閉塞	20 (1.8%)			
肺炎	18 (1.7%)			

(TG:胃全摘 , PS:臍脾合切 , S:脾臓合切 , DPG:幽門側胃切除)

縫合不全 : 切除後の再建吻合部に漏れを生じたもの

深達度と5年生存率

深達度	症例数	5年生存率
粘膜	274	95.9%
粘膜下層	221	88.9%
固有筋層	100	86.6%
漿膜下層	168	63.9%
漿膜	267	37.1%
他臓器浸潤	92	9.8%

深達度は癌が胃の壁のどのくらいの深さまで達しているかを示したもので、深くなるほど予後は不良であった。

Stageと生存率

	症例数	5年生存率
stage1a	439	94.3%
stage1b	134	88.5%
stage2	120	87.1%
stage3a	78	51.3%
stage3b	66	58.8%
stage4	298	12.0%

Stageは深達度，リンパ節転移の程度，肝転移の有無等で決定されます．

早期胃癌について

早期胃癌はその深さが粘膜内，あるいは粘膜下層までのものと定義され，リンパ節や肝への転移の有無は問いません．

特定の条件を満たすものについては，内視鏡的粘膜切除が可能となります．また，それ以外で手術が必要になる場合でもリンパ節を切除する範囲の縮小が可能です．

以下に当科での手術成績を簡単に示します．

当科で手術した早期胃癌

496例

粘膜内	273
粘膜下層	223

残胃癌:4例を含む

多発癌（記載の明らかな491例）

	症例数	5年生存率
単発	448	93.1%
多発	43(8.8%)	91.0%

一つ早期胃癌が見つかり、実は多発している場合が8-9%あります。

早期胃癌リンパ節転移と予後

	症例数	5年生存率
リンパ節転移なし	378	93.9%
リンパ節転移あり	54	83.4%

(リンパ節転移状況が明らかな432例)

早期胃癌の死因

死亡例：47例（再発死亡は6例）

肝転移	2	直死	2
腹膜播種	2	在院死亡	2
リンパ節再発	2	他癌死	5
遠隔転移	2	他病死	12
再発部位不明	1	死因不明	20

（重複あり）